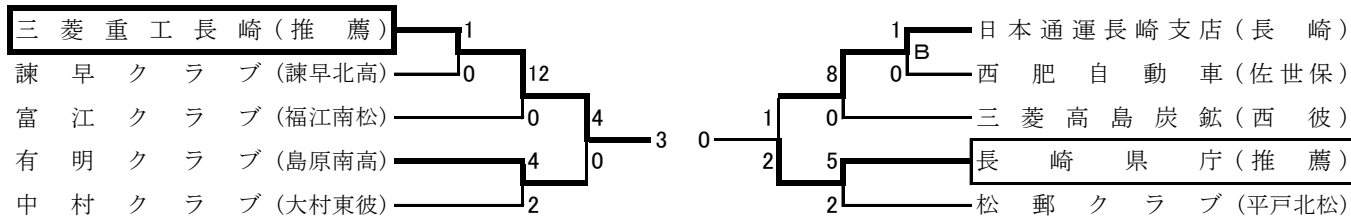


長崎国体出場の重工と県庁が決勝戦で雌雄を決す

昭和44年は第25回国民体育大会が長崎県で開催された年である。開催県として全競技にエントリーすることができるが例年秋季に開催の県民体育祭をこの年は5月末に行ない、その決勝戦で三菱高島炭鉱を7-0で下した三菱重工長崎が国体に出場。準硬式の部も県庁、岡政(長崎)、三菱自動車(同)、

親和銀行(佐世保)、長崎トヨタ(同)、長崎無線局(諫早)などが県民体育祭で国体出場をめざして戦い、決勝戦で県庁が親銀を3-2撃破し国体の出場権を得た(国体に関する記事は後ページに詳細あり)。その国体に出場した長崎県庁と前前年度優勝の三菱重工に加え、県下8地区代表が出場した。

| | |
|--------------------------|------------------------|
| 第19回長崎県下軟式野球選手権大会 | 会期 昭和44年11月8日(土)～9日(日) |
| | 会場 A・長崎市営大橋球場 B・三菱球場 |



県下軟式野球大会 あす火ぶた

(大会前日の11月7日付けの長崎新聞より抜粋)

第19回県下軟式野球選手権大会は8、9の両日に長崎市営大橋球場に前年度優勝の三菱重工をはじめ、各地区代表10チームが参加して開幕する。この大会は県下軟式野球のチャンピオンを決めるだけに各チームの大会にかける意気込みは大変なもの。第10回大会以来長崎勢が栄冠を独占。今年も長崎国体四位の三菱重工が三連勝を狙っているが他チームも「ストップ・ザ・重工」をめざしておりシーズン最後を飾るにふさわしい熱戦が期待される。

大会を前に出場チームの戦力を探ってみよう。

3連勝ねらう三菱重工 追う日通、県庁 有明もやる気十分

優勝候補の筆頭はやはり三連勝をめざす三菱重工があげられる。先の長崎国体に県代表として出場し見事四位入賞した力は抜群。投手陣は荻野一人が背負っている。荻野は招待試合の福岡専売戦では完全試合を成し遂げ、今国体では51イニング失点2という素晴らしい実績の持ち主。よほどのことが無い限り一人で投げ抜くだろう。打線は江崎、橋本、田中が中心。これをベテラン弦本、松山がカバーし打線はスキがない。それに大試合の経験が豊富なのは最大の強み。

この三菱重工と一回戦で当たる諫早クラブ(諫早北高)もおもしろい存在。3年連続出場で一昨年はベスト8、昨年はベスト4と尻上がりの成績を残しているのは見逃せない。諫早高OBを主体としたメンバーで硬式経験者がほとんど。エース佐藤を中心とした守りのチーム。佐藤はコーナー・ワークと大きなカーブで相手打線を押えている。打線は4番を打つ田中が固定しているだけで、あとはその時の調子次第で組んでいるだけに今一つもの足りない。今季公式戦は28勝4敗と好調。その中でも三菱重工との対戦成績を2勝2敗のタイにしているのが光っている。選手たちは『今度こそ』と並々ならぬ闘志を見せておりダークホース的存在。

また国体出場の県庁(推薦)や、激戦区の長崎を勝ち抜いた日通長崎支店も強そう。県庁は準硬式チームとして定評あり国体では一回戦敗退したがチーム力は高く評価される。組み合わせから見てベスト4は堅い。日通は宮崎、福岡の投手力を中心に守りのチーム。地区予選の4試合も相手打線を2点以内に押えている。打線は俊足巧打の岡野を中心に上、下位ともよく打っており波に乗るとこわい。戦績も13勝2敗で、初出場ながらひと暴れしそう。

同じ初出場組の中村クラブ(大村・東彼)、富江町(福江・南松)がどんな試合を見せるかも興味が持たれる。中村クは昭和19年に結成された伝統のチーム。仕事の都合で練習量が少ないのが悩み。コツコツ当てる短打主義に徹しているが全般的に変化球に弱いののが気がかり。富江町は五島高OBがほとんどで、これといった特徴は持たないが、捕手・荒木のリードと強肩は見もの。

実績を持つ西肥自動車(佐世保)も好選手ぞろいだが、平均年齢32歳はちょっと苦しく早めに勝負に出てこよう。チームの浮沈はエースの山下にかかると言われる。左腕の山下はシュートと速球に威力を見せ、控えにはカーブが得意の左腕西町がいる。打線は西町、中尾、山下のクリーンアップトリオは、長打力を秘めているが半面もろさもある。今年佐工から入った力武や田中がどんな働きを見せるか。

通算6回出場の有明クラブ(島原・南高)はぐっと若返りやる気は十分。打線は切れ目がなく、特に一二番コンビの吉田正、金子は小細工のきくうるさいバッター。投手力は本格派の金子、水島と充実、安定しており、調子に乗ればひと波乱まき起こす力はある。

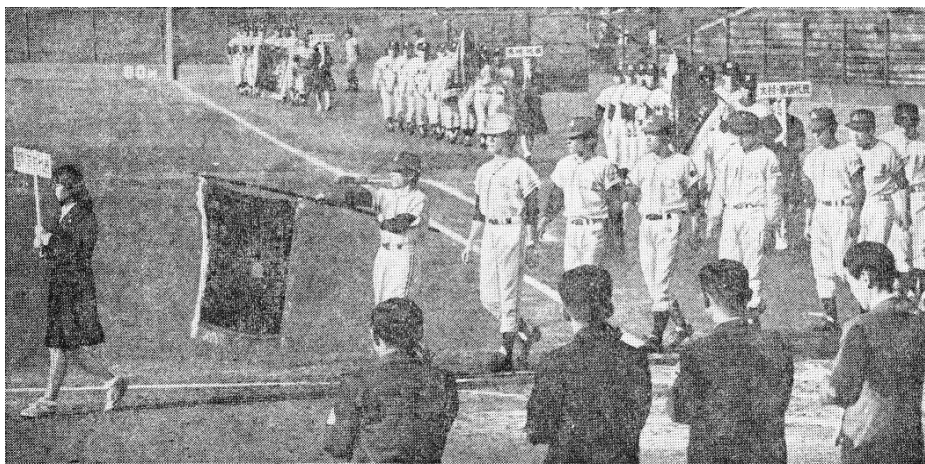
松郵クラブ(平戸・北松)はエース中嶋の肩の痛みが心配でそれを機動作戦でどこまで補うか。三菱高島炭鉱(西彼)は好投手・桜井の抜けたアナが大きく戦力はガタ落ち。選手層も薄いだけに二回戦が精一杯。

こうして見てくると、ベスト4に顔を見せるのは三菱重工、有明クラブ、長崎日通、県庁が有力。しかし各チームとも『あわよくば』と上位進出を狙っているだけに予断は許さない。

県下軟式野球界の王座を決める第19回県下軟式野球選手権大会は秋晴れの8日、大橋球場と三菱球場に前年度優勝の三菱重工をはじめ各地区予選を勝ち抜いてきた精鋭10チームが参加し二日間にわたる熱戦の幕をあけた。

一日目の8日は午前9時から大橋球場で開会式が行なわれ勇壮なマーチに乗って長崎東高定時制のかかげる国旗、大会旗を先頭に選手団が入場。先頭は優勝旗を手にした前年度優勝の三菱重工、続いて長崎県庁、西肥自動車、諫早クラブ、有明クラブ、中村クラブ、日通長崎、松郵クラブ、三菱高島、富江町の順に各チームのナインは地区優勝旗をなびかせて力強い足取りでダイヤモンドを一周しホームプレート前に勢ぞろい。会場に流れる「君が代」で国旗と大会旗が「勇者は帰りぬ」のメロディーで長崎新聞社旗と県軟式野球連盟旗が掲揚された。

古川大会副委員長(長崎新聞社事業部長)の開会宣言のあと前年度優勝の三菱重工から優勝旗が、次いで準優勝の親和銀行から準優勝杯が返還され三菱重工にレプリカが贈られた。



主催者を代表して加藤長崎新聞社取締役が「本大会が長崎国体の興奮冷めやらぬうちに開かれることは喜びにたえない。選手の皆さんは日頃練磨された技を發揮され正々堂々と戦って欲しい」とあいさつ。

知事(代理・指方県教養厚生課長)、諸谷長崎市長(代理・井上教育長)がお祝いの言葉を述べた。選手を代表して三菱重工の野原主将が選手宣誓して開会式を終わった。

(昭和44年11月8日付けの長崎新聞・夕刊より記事と写真は抜粋)



開会式に続いて大橋、三菱の両球場で二回戦6試合を行ない前年度優勝の三菱重工、長崎国体に出場した県庁、それに有明クラブ、日通長崎支店の4強が予想どおり勝ち準決勝に進んだ。

朝から上空にあった雲も昼過ぎには消え、球場は暖かい日差し。土曜日とあって午後からスタンドには職場の応援団も陣取った。大橋球場の一回戦、三菱重工-諫早クラブは三菱が八回にスクイズで貴重な1点を挙げて勝ち、続く二回戦の有明クラブ-中村クラブは試合運びに一日の長がある有明が。

三菱重工-富江町は実力で圧倒的に勝る三菱重工。県庁-松郵クラブは松郵の山下雅由選手が外野芝生席に叩き込む大会第1号の2点本塁打で先行したが、県庁が貫禄でこれを跳ね返し、それぞれ勝った。

三菱球場の一回戦、日通長崎支店-西肥自動車は1点を争う好試合となったが日通が八回スクイズで決勝点をあげた。続く二回戦の日通長崎-三菱高島炭鉱は実力に上回る日通が3本のランニング・ホームーを含む猛打で圧勝した。(昭和44年11月9日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【諫早】打安点

| | |
|--------|-------|
| ⑦ 広谷 | 4 1 0 |
| ④ 神崎 | 4 0 0 |
| ⑧ 毎熊 | 4 1 0 |
| ② 田中 | 3 2 0 |
| ① 佐藤 | 3 1 0 |
| ⑥ 本田 | 3 0 0 |
| ③ 山口 | 3 0 0 |
| ⑨ 千住 | 2 0 0 |
| H9 舟木 | 1 0 0 |
| ⑤ 高島 | 3 0 0 |
| 30 5 0 | |

三菱重工、幸運な勝利 スクイズで決勝点

【一回戦】=大橋:第1試合= 振球犠盗併残失 1時間45分

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 諫早クラブ | 000 000 000 | 0 | 10 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 |
| 三菱重工長崎 | 000 000 01X | 1 | 2 | 4 | 1 | 3 | 0 | 6 | 0 |

(審判)山下、佐方、波井、深堀

【評】あっけない決勝点だった。0-0で迎えた八回の三菱は一死三塁に橋本をおいて吉武がスクイズバント。諫早の佐藤投手はピッチャー前に転がる球をすぐ拾った。が、なぜか一塁へ送球。橋本の生還を許し、やすやすと決勝点を与えた。橋本のスタートもよく微妙なタイミングだったが本塁に返球すべきだった。

【三菱重】打安点

| | |
|------|-------|
| ⑤ 橋本 | 2 0 0 |
| ⑥ 松山 | 3 0 0 |
| ⑧ 吉武 | 4 2 1 |
| ② 江崎 | 4 0 0 |
| ④ 弦本 | 2 0 0 |
| ⑦ 野原 | 3 0 0 |
| ③ 真崎 | 2 0 0 |
| H 小崎 | 1 0 0 |
| 9 中村 | 0 0 0 |
| ① 荻野 | 3 1 0 |
| ⑨ 山田 | 2 0 0 |
| 3 野中 | 0 0 0 |

日通、1点を守りきる

【日通】打安点

| | | | | |
|---|-----|----|---|---|
| ⑥ | 山口保 | 4 | 1 | 0 |
| ④ | 井口 | 4 | 0 | 0 |
| ⑦ | 岡野 | 3 | 0 | 0 |
| ② | 酒田 | 4 | 2 | 0 |
| ⑧ | 福岡 | 4 | 0 | 0 |
| ① | 宮崎 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤ | 本多弟 | 4 | 2 | 1 |
| ③ | 本多兄 | 4 | 0 | 0 |
| ⑨ | 前田 | 2 | 1 | 0 |
| | | 33 | 6 | 1 |

【一回戦】=三菱:第1試合= 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本通運長崎支店 | 000 | 000 | 100 | 1 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 7 | 2 |
| 西肥自動車 | 000 | 000 | 000 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 |

【三】山下 (審判)井上、中田、松本、宮口 1時間40分
 【評】両軍とももう一発の決定打が出ず無得点が続いたが、七回にようやく均衡が破れた。日通はこの回、先頭の酒田が中前打。すかさず二盗。福岡も三塁失で生きた。6番宮崎はピッチャー前に転がしたが野選となって無死満塁の絶好機。本多弟は2-0後の3球目をスクイズし酒田を迎え入れた。この場面は当然スクイズが予想されバッテリーとしては1、2球遊ぶところ。決勝点になっただけに痛かった。

【西肥】打安点

| | | | | |
|----|----|----|---|---|
| ⑦ | 飯田 | 4 | 0 | 0 |
| ② | 清水 | 3 | 0 | 0 |
| ⑧ | 西町 | 4 | 0 | 0 |
| ① | 山下 | 3 | 1 | 0 |
| ⑤ | 中尾 | 4 | 0 | 0 |
| ⑥ | 力武 | 3 | 1 | 0 |
| ③ | 田中 | 3 | 0 | 0 |
| ⑨ | 富永 | 1 | 0 | 0 |
| H9 | 山田 | 2 | 0 | 0 |
| ④ | 田崎 | 3 | 1 | 0 |
| | | 30 | 3 | 0 |

有明ク、中村クを振り切る

【中村】打安点

| | | | | |
|----|-----|----|---|---|
| ⑧ | 釜 | 3 | 0 | 0 |
| ② | 相田 | 3 | 0 | 0 |
| ⑦ | 高橋 | 4 | 1 | 1 |
| ⑥ | 大石 | 4 | 1 | 0 |
| ③ | 1鈴木 | 4 | 2 | 1 |
| ④ | 上野 | 4 | 0 | 0 |
| 4 | 中村 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨ | 西 | 4 | 1 | 0 |
| ⑤ | 指方 | 3 | 0 | 0 |
| ⑩ | 3植木 | 2 | 0 | 0 |
| H3 | 鈴田 | 1 | 0 | 0 |
| | | 32 | 5 | 2 |

【二回戦】=大橋:第2試合= 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中村クラブ | 000 | 200 | 000 | 2 | 9 | 2 | 0 | 2 | 0 | 5 | 7 |
| 有明クラブ | 100 | 200 | 01X | 4 | 4 | 2 | 0 | 3 | 0 | 5 | 1 |

1時間31分

【三】高橋 【二】吉田富2、北田 (審判)入江、森、平井、黒川
 【評】勝負は実力の差で決まった。有明は初回先頭の金子が四球で出塁。すぐ二盗、二塁手のダブルエラーであっさりホームを踏んだ。さらに四回、2本の長短打を足場に4失策で2点と相手守備陣の乱れに乗じて加点。
 一方、中村は四回に高橋の三塁打とスクイズで2点を返し追いつがった。しかし五回以降は有明・金子投手の切れのいい変化球が打てず三者凡退。やっと最終回一死一二塁の好機を迎えたが、金子にかわされた。結局、中村は守備の乱れで自滅した。

【有明】打安点

| | | | | |
|---|-----|----|---|---|
| ① | 金子 | 3 | 0 | 0 |
| ② | 吉田正 | 3 | 1 | 0 |
| ⑥ | 北田 | 4 | 1 | 1 |
| ⑦ | 竹之内 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤ | 稲田 | 4 | 1 | 0 |
| ③ | 高見 | 4 | 0 | 0 |
| ⑨ | 吉田富 | 3 | 2 | 1 |
| ④ | 吉田淳 | 3 | 1 | 0 |
| ⑧ | 加藤 | 3 | 0 | 0 |
| | | 31 | 6 | 2 |

三菱重、コールド勝ち 富江の2投手乱れる

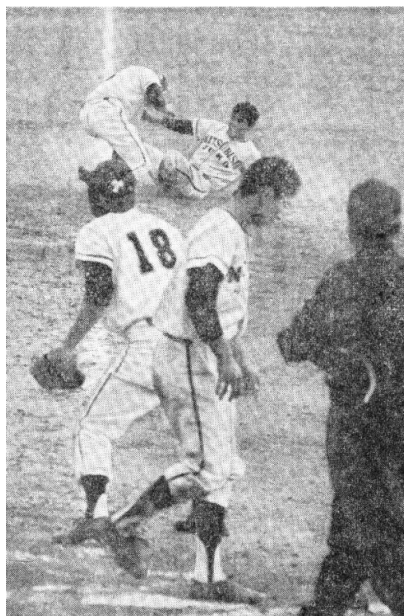
【二回戦】=大橋:第3試合= 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|---|----|---|----|---|---|---|----|---|
| 三菱重工長崎 | 045 | 030 | 0 | 12 | 5 | 12 | 1 | 8 | 1 | 11 | 0 |
| 富江町 | 000 | 000 | 0 | 0 | 6 | 3 | 0 | 2 | 0 | 3 | 4 |

1時間42分

【二】橋本、松山、野中、出村、津元 (審判)米崎、草野、長尾、石垣

【評】試合は全くワンサイドゲームだった。三菱は初回から先頭の橋本がフェンス直撃の二塁打。この回の好機は富江・今村中堅手の美技に阻まれたが続く二三回で勝負は一気に決まった。富江の先発平山、救援の津元両投手はともに制球難。連続の四死球とカウントを揃えようとする棒ダマを三菱打戦に狙われ、与えた四死球12、被安打9。守備の乱れも自らを潰した。
 一方、富江打線は最初からピンピンと投げ込む三菱の野原、真崎両投手の速球に散発2安打に押えられた。実力の差だった。



| | |
|-------------|-------------|
| 【三菱重】打安点 | 【富江】打安点 |
| ④6 橋本 2 1 0 | ④ 中村 2 0 0 |
| ⑥ 松山 4 1 0 | ⑥ 松倉 3 0 0 |
| 4 弦本 1 1 0 | ⑤ 福島 2 0 0 |
| ⑧ 吉武 4 2 3 | ③ 若田 2 0 0 |
| ② 江崎 1 0 0 | H 古川 1 0 0 |
| R2 山田 1 0 0 | ⑦ 佐々木 2 0 0 |
| ⑤ 野中 5 1 1 | H 福田 0 0 0 |
| ⑨ 小崎 2 0 0 | ⑧ 今村 3 1 0 |
| H9 荻野 2 0 0 | ② 荒木 2 0 0 |
| ① 野原 2 0 0 | ⑨ 角 0 0 0 |
| 1 真崎 0 0 0 | 1 津元 2 1 0 |
| ③ 出村 5 3 3 | ⑩ 9平山 2 0 0 |
| ⑦ 中村 2 0 1 | 21 2 0 |
| 31 9 8 | |

エラーで生還

三菱は2回敵失の間に二塁から中村生還。(三塁に滑り込むのは橋本)。三塁手・福島、捕手・荒木、球審・米崎。

県庁あっさり逆転

【二回戦】=大橋:第4試合= 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | | |
|-------|-------------|---|----|---|---|---|---|---|---|--------|
| 長崎県庁 | 003 200 000 | 5 | 2 | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 | 1 | 1時間34分 |
| 松郵クラブ | 020 000 000 | 2 | 11 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | |

【本】山下 【二】今村、小森 (審判)清水、上川、松本、森

【評】投打にまさる県庁の順当勝ち。試合は松郵が山下の2点本塁打で先行し盛り上がりを見せたが、県庁打線はすぐにひっくり返した。先行を許した県庁は三回に4安打を連ねて3点を取る効率のいい攻めで逆転。四回一死後は2本の二塁打と失策で2点を追加し、試合を決めた。守っては堀口、山内の投手陣が松郵打線を山下の本塁打1本に抑え全く危なげないピッチング。

唯一の好機をモノにした松郵だったが、1安打ではどうしようもなかった。

| | |
|------------|------------|
| 【県庁】打安点 | 【松郵】打安点 |
| ④井口 3 2 0 | ④今村 4 0 0 |
| ⑥宿輪 4 1 2 | ⑧松居 4 0 0 |
| ⑨坂口 3 1 0 | ⑨中島 4 0 0 |
| H3芦塚 2 0 0 | ⑤1為田 3 0 0 |
| ⑧2浜村 4 0 0 | ①中野 3 0 0 |
| ⑦今村 4 2 0 | 5笹原 0 0 0 |
| ⑤小森 4 1 1 | ③堤 3 0 0 |
| ③9原 4 1 0 | ②山下 3 1 2 |
| ①8堀口 2 1 0 | ⑥岡村 3 0 0 |
| ②宇野 3 2 1 | ⑦松瀬 2 0 0 |
| 1山内 1 0 0 | 29 1 2 |
| 34 11 4 | |

日通打線大当たり 3ホーマーで圧勝

【一回戦】=三菱:第2試合= 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | |
|----------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本通運長崎支店 | 021 000 032 | 8 | 0 | 5 | 1 | 6 | 1 | 4 | 0 |
| 三菱高島炭鉱 | 000 000 000 | 0 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 4 |

【本】酒田、山口信、本多弟 【二】山口信 1時間50分

(審判)中田、宮口、上川、井上

【評】日通打線は波に乗るとすごい。3本塁打を含む9長短打がかっ飛ばして圧勝した。日通は二回2安打と守備の甘さに乗じて2点を拾ったあと、三回は酒田がレフと左を痛烈に破るランニングホームー。八回も山口信の左越え2点本塁打で3点を追加。最終回には本多弟が中越えの豪快な2点本塁打でダメを押した。

一方、三菱高島は初回一死一二塁と先制機を迎えた。しかし藤崎の三塁ゴロが一塁に送球される間に三走の佐藤寿が本塁に向かったがスタート悪く寸前でタッチアウト。その後は酒田の速球に凡打を繰り返すだけ。高島の雑な攻めが目立った。

| |
|-------------|
| 【高島】打安点 |
| ⑧佐藤寿 1 0 0 |
| H8山本 1 0 0 |
| H佐藤登 1 0 0 |
| ④武石 3 1 0 |
| ②樫木 4 1 0 |
| ①51藤崎 3 0 0 |
| ⑥植松 3 0 0 |
| ⑨岩崎 3 0 0 |
| ⑦17高浜 3 0 0 |
| ③宮崎 2 0 0 |
| H三岳 1 0 0 |
| ⑤75井上 2 0 0 |
| H糸柳 0 0 0 |
| 27 2 0 |

| |
|-------------|
| 【日通】打安点 |
| ⑦3岡野 4 0 0 |
| ⑧7本多弟 3 2 2 |
| ③1酒田 5 1 1 |
| ①38福岡 4 0 0 |
| ⑤宮崎 4 2 1 |
| ②山口信 3 2 2 |
| ⑥山口保 2 0 1 |
| H6坂本 1 0 0 |
| ④井口 2 1 0 |
| H4本多兄 1 1 0 |
| ⑨前田 0 0 0 |
| H9瀬川 2 0 0 |
| 31 9 7 |



最終日は9日午前9時半から大橋球場で4強が準決勝、決勝を争い三菱重工が3年連続三回目の優勝を果たした。この日は日ざしも暖かい日曜日でスタンドには職場仲間に行楽を兼ねた家族連れや、チビっ子ファンら大勢が詰めかけ、試合がヤマ場になるたびに声をあげて応援していた。準決勝第1試合は三菱重工がソツない攻撃で得点を重ね

有明クラブに2-0で快勝。第2試合は1点先行された県庁が四回に連打と敵失で2-1と逆転しそのまま押し切った。決勝戦の顔合わせは予想どおりで初回から緊迫の試合運びだったが三菱が二回に3長短打と敵失で3点をあげ、3-0で勝ち優勝した。

(昭和44年11月10日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

三菱の守りくずせず

【準決勝】 振球犠盗併残失

| | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|
| 三菱重工長崎 | 012 000 100 | 4 | 4 | 4 | 0 | 3 | 2 | 9 | 0 | 1時間26分 |
| 有明クラブ | 000 000 000 | 0 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |

【三】吉武2、橋本 【二】加藤 (審判)山下、入江、石垣、深堀

【評】三菱は長打をうまく得点に結びつけ、守っては野原が有明打線を散發2安打に完封し快勝した。

三菱は二回、当たっている吉武が中越え三塁打。弦本の遊ゴロで還って早くもリード。三回には無死一二塁に3番橋本が左翼線に三塁打し2点を追加。試合はこの一打で決まった。さらに八回一死後、またも吉武が中越え三塁打し敵失で還って4点目。有明の金子投手は連投の疲れも見せず切れのいいカーブで好投したが、三菱上位打線が一枚上。

有明は走者が出て何れも併殺網にかかり得点圏に走者を進めたのは一回だけ。六回以降はいいところ無く好投の金子を見殺しにした。

| |
|------------|
| 【三菱重】打安点 |
| ⑥松山 3 0 0 |
| 5野中 1 1 0 |
| ③出村 4 1 0 |
| 56橋本 4 1 2 |
| ⑧吉武 4 2 0 |
| ④弦本 4 1 0 |
| 4真崎 1 0 0 |
| ②江崎 4 0 0 |
| ①野原 4 1 0 |
| ⑨中村 3 2 0 |
| H9小崎 1 0 0 |
| ⑧山田 3 0 0 |
| 36 9 2 |

| |
|------------|
| 【有明】打安点 |
| ①金子 4 0 0 |
| ⑤吉田正 3 1 0 |
| ⑥北田 3 0 0 |
| ⑦竹之内 3 0 0 |
| ③稲田 3 0 0 |
| ⑨吉田富 3 0 0 |
| ④吉田淳 1 0 0 |
| H4伊達 1 0 0 |
| ②本多 3 0 0 |
| ⑧加藤 3 1 0 |
| 27 2 0 |

県庁危うく逆転

日通、失策が命取りに

【準決勝】

| | | | | | | | | | |
|----------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本通運長崎支店 | 100 000 000 | 1 | 2 | 4 | 0 | 2 | 0 | 3 | 1 |
| 長崎県庁 | 000 200 00X | 2 | 4 | 3 | 1 | 1 | 1 | 6 | 0 |

(審判)中田、波井、長尾、福田 2時間29分

【評】 互角の試合内容だったが日通のただ1個の失策が県庁の逆転勝利となった。日通は初回二死後に岡野が四球。二盗後に酒田の中前打で先制。試合は面白くなったがその後は制球良く攻める山内を捕らえることができず。

一方の県庁は三回まで三者凡退。日通・宮崎の丁寧にコーナーを突く軟投と的確に判断する酒田捕手の好リードに抑えられていた。だが打者一巡した四回、上位打線の連打と敵失で一気に勝機をつかんだ。井口、宿輪の連打で一、二塁。坂口の三塁ゴロが一塁悪送球で二走が還り同点とし三塁に進んだ宿輪も浜村の犠飛で還って逆転した。

【日通】打安点

| | | | |
|--------|---|---|-----|
| ⑥ 山口保 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤4 本多 | 4 | 1 | 0 |
| ⑦ 岡野 | 3 | 0 | 0 |
| ②1 酒田 | 3 | 1 | 1 |
| ①3 宮崎 | 2 | 0 | 0 |
| ⑧ 福岡 | 3 | 0 | 0 |
| ③2 山口信 | 3 | 0 | 0 |
| ④5 井口 | 2 | 0 | 0 |
| ⑨ 前田 | 3 | 1 | 0 |
| 27 | | | 3 1 |

【県庁】打安点

| | | | |
|------|---|---|-----|
| ④ 井口 | 4 | 2 | 0 |
| ⑥ 宿輪 | 3 | 1 | 0 |
| ⑨ 坂口 | 4 | 0 | 0 |
| ② 浜村 | 2 | 0 | 1 |
| ⑦ 今村 | 4 | 0 | 0 |
| ⑤ 小森 | 3 | 0 | 0 |
| ③ 原 | 2 | 0 | 0 |
| 3 芦塚 | 1 | 0 | 0 |
| ① 山内 | 2 | 0 | 0 |
| ⑧ 堀口 | 3 | 1 | 0 |
| 28 | | | 4 1 |

三菱重工の投打さえる 1安打に完封

三菱、唯一の好機生かす

【三菱重】打安点

| | | | |
|-------|---|---|-----|
| ⑥ 松山 | 4 | 0 | 0 |
| ④ 弦本 | 4 | 2 | 1 |
| ⑤ 橋本 | 3 | 0 | 0 |
| H5 真崎 | 1 | 0 | 0 |
| ⑧ 吉武 | 3 | 1 | 0 |
| ③ 野中 | 4 | 2 | 0 |
| ⑦ 野原 | 5 | 1 | 0 |
| ② 江崎 | 4 | 1 | 0 |
| ① 荻野 | 4 | 0 | 0 |
| ⑨ 中村 | 3 | 1 | 1 |
| 35 | | | 8 2 |

【県庁】打安点

| | | | |
|-------|---|---|-----|
| ④ 井口 | 4 | 1 | 0 |
| ⑥ 宿輪 | 3 | 0 | 0 |
| ⑧3 堀口 | 4 | 0 | 0 |
| ② 浜村 | 4 | 0 | 0 |
| ⑦ 今村 | 3 | 0 | 0 |
| ⑨8 坂口 | 3 | 0 | 0 |
| ⑤ 小森 | 3 | 0 | 0 |
| ① 山内 | 3 | 0 | 0 |
| ③ 原 | 2 | 0 | 0 |
| H9 宇野 | 1 | 0 | 0 |
| 30 | | | 1 0 |

【決勝戦】

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------|---|---|---|---|---|---|----|---|
| 三菱重工長崎 | 030 000 000 | 3 | 2 | 7 | 0 | 1 | 0 | 11 | 2 |
| 長崎県庁 | 000 000 000 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 2 |

振球犠盗併残失 1時間41分

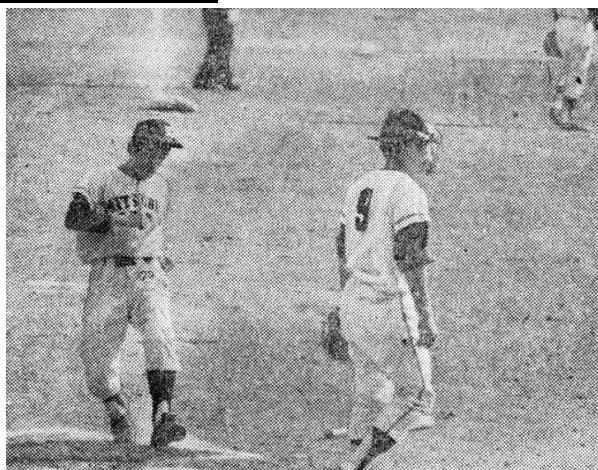
【二】弦本、野中、井口 (審判)米崎、上川、平井、宮口

【評】 国体出場チーム同士の対戦は、三菱重工がワンチャンスを生かして3点をあげ、そのまま逃げ切った。

試合のヤマ場は以外に早く訪れた。三菱は初回二死二三塁の先制機を逃したが二回の幸運な先取点に気を良くして調子に乗った。この回、内野安打で出た野原は三塁の失策で一挙に塁へ。一死後に荻野のなんでもない投ゴロを投手の山内が三塁へとんでもない悪投し野原はおどりがってホームイン。県庁にとっては痛恨の失策。このあと三菱は2長短打をたたみかけて2点を加えた。以後も毎回のように塁上を賑わしたがここ一発がなく追加点なし。

一方の県庁は二回無死二塁。三回は一死二塁の反撃機に雑に攻めたのが命取りとなった。四回以降は荻野に完全に抑えられて一矢を報いられなかった。

投打に安定した力を持つ三菱重工が順当に3連覇を達成した。



三菱は2回二死二塁に弦本の右二塁打で中村かえり3点目



晴れの優勝旗を受ける 三菱重工の江崎利男捕手

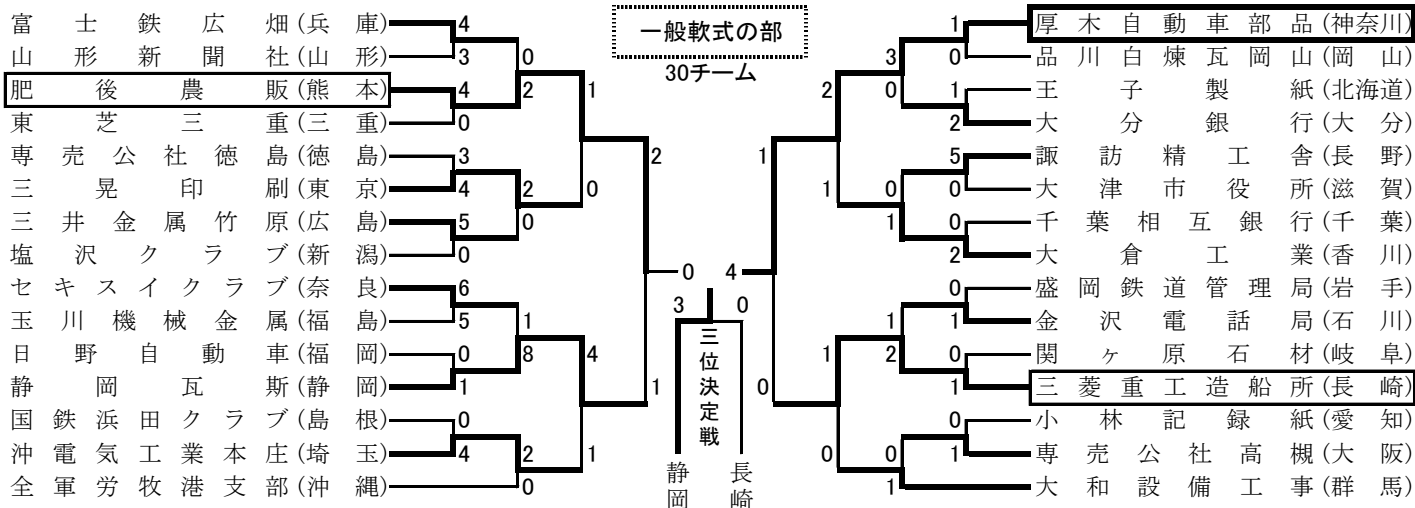
個人賞受賞者

- ◇最優秀選手賞 荻野 洋一 (重工)
- ◇最優秀投手賞 荻野 洋一 (重工)
- ◇首位打者賞 吉武 常行 (重工)
- ◇打撃賞 井口 一彦 (県庁)
- ◇敢闘賞 山内 英夫 (県庁)
- ◇勝利監督賞 竹本 恵二 (重工)

第24回国民体育大会

会期 昭和44年10月27日(月)~30日(木)

会場 長崎市、諫早市



昭和21年に京都を中心に関西地区で開始された秋季国民体育大会は22競技の一つとして軟式野球競技も始まった。またこれを第1回全日本軟式野球大会(第2回から国体とは別に開催し、23年に天皇杯が下賜)とした。第4回大会から20チーム以上の参加となり九州枠は2~4枠となるが、長崎県からの出場はこれまでに30年、33年、37年、41年と4回の出場だけで、全て初戦での敗退であった。

だが地元での国体に出場した三菱重工は、3試合を勝ち上がって準決勝に進出した。その戦績は…。

一回戦の関ヶ原石材(岐阜)戦は延長15回まで双方0行進。16回先頭の真崎が三ゴロが悪送球で生き、松山の右翼線二塁打でようやく決勝点を奪った。投手の荻野は立ち上がりは不安であったが三回以降は1安打のみで16回を投げ、被安打3、与四球1、奪三振13で完封。続けて二回戦の金沢電話局(石川)は前年の国体優勝チーム。1-1で同点の八回二死後に田中が左翼席に決勝本塁打した。

三菱重工造船所のメンバー

監督 竹本恵二

選手 野原富安

荻野洋一

奥村良治

江崎利男

真崎重孝

弦本匡功

橋本五郎

出村富男

田中昭弘

山田富嗣

小崎秀和

吉武常行

中村義見

松山靖彦

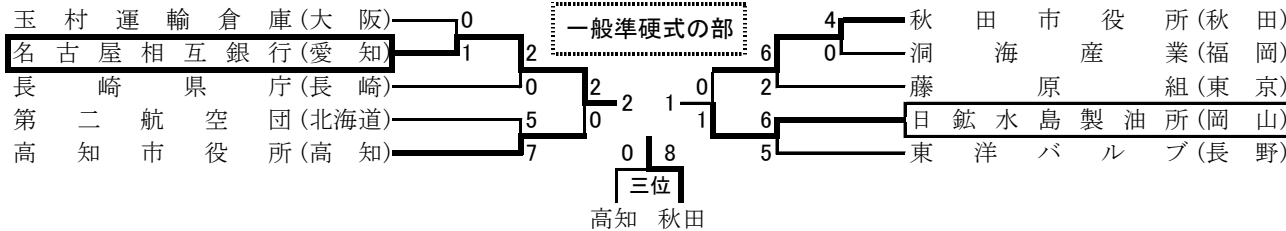
三回戦の大和設備工事(群馬)戦も0-0で延長戦。16回までノーヒットに抑えられていたが17回に江崎と野原が連打し野手の拙守もあり二三塁とした場面で代打に小崎。2-1からの外角球を右中間にサヨナラ打。前日に25インニングスを投げた荻野はこの試合も完投し九回無死一二塁も切り抜けて散発6安打に抑えベスト4に進出した。

だが続けて行なわれた準決勝の厚木自動車部品(神奈川)戦は二回に3安打集中され1点を許したが、これが決勝点。打線も沈黙したままで、橋本が打った大飛球は2本ともボールの外側という不運さもあった。

三位決定戦は静岡瓦斯。荻野以外の投手が登板し五、六回に3点失点。七回無死一三塁で荻野が登板。ここを抑えて打線に期待もゼロ封。

荻野は一日目に25回。二日目が26回。三日間で53インニングス投じて失点は2。前年まで重工硬式野球部にいたといえ鉄腕ぶりだった。

★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★



国体軟式野球競技に一般準硬式の部が取り入れられたのは30年の第10回大会から。10チーム参加で九州枠は1。昨年までの14年間は福岡の独壇場で、たまに他県が出る程度だったが地元開催により初参加。予選会は岡政、三菱自動車の長崎勢に、親和銀行、長崎トヨタの佐世保勢。諫早の長崎無線局も加わって行なわれたが、決勝で親銀を3-2で倒した県庁が出場した。長崎県庁は6月の常陸宮全日本準硬式に出場し、

2勝を挙げベスト8入りしており3年前の41年大分国体に出場した藤岡石油店の山内英夫を補強して臨んだ。

二回戦から登場の県庁は名古屋相互銀行に対して前半は再三得点圏に走者を置いたが決定打が出ず。山内は我慢の投法で0-0のまま延長戦。だが12回に2点を奪われ敗戦。

その後、国体準硬式の部に長崎からの参加は無く、49年の第29回茨城大会をもって国体から姿を消した。

天皇賜杯第24回全日本軟式 8/1~・高知県

松早石油店【二】 0-1 厚木自動車部品(神奈川)

常陸宮賜杯第5回全日本準硬式 6/8~・長野県

長崎県庁【二】 4-2 光洋精工高松(香川)

【三】 2-0 日本原子力研究所(茨城)

【準々】 1-5 東芝三重(三重) = 優勝

高松宮賜杯第13回全日本2部 9/25~・愛媛県

中村クラブ【一】 10-1 ライナーズ(長野)

【二】 1-6 豊田クラブ(山口)